

第8回北方学園開校準備委員会 会議要旨

と き 令和5年2月28日

ところ 役場2階 大会議室

※会議の主な内容は以下のとおり

事務局：定刻どおり第8回北方学園開校準備委員会を始める旨を告げる。（9時30分開始）

教育長：会議に先立ち、あいさつを述べる。また、北方学園構想の進捗状況について報告する。

委員長：あいさつを述べる。

委員長：次第に基づき、各部会での今年度の協議内容について説明を求める。

各部会長：資料をもとに各部会より今年度の協議内容について説明を行う。

委員長：北方学園構想の進捗状況及び各部会からの報告に対し質疑応答を行う。

（主な協議内容）

○4月に新たに異動してこられる先生方にも配慮できるようなカリキュラムになっていて素晴らしいと思います。また、0歳から15歳までの15年間カリキュラムを作成されたということもすごいと思います。心配しているのは、スマホの利用で、子どもたちが犯罪に巻き込まれないために、児童生徒や保護者に教育をしていただけるとよいと思います。北方科の教科書にある様々な数値については、常に最新のデータで学べるようにしていただけるとよいと思います。

⇒新年度早々、PTAと連携を図りながら情報モラル教育を推進するという事で、家庭におけるスマホやタブレットの使用については、ペアレンタルコントロール機能を使い、保護者のご理解ご協力のもとで制限をかけつつ、さらにどういう使い方が必要なのかを家庭内でルール作りをするというようなことを進めていこうと考えています。また、企業や警察のご指導のもと、確かな情報をもとにどういった危険性があるのかを十分説明しつつ情報モラル教育を進めていきたいと考えています。

○それぞれの専門部会が素晴らしい取り組みをしていただいたと思います。いい学校をつくるという熱い思いを感じ、本当に頭が下がります。15年間のカリキュラムなどの資料については、字のフォント数を大きくするなど、見やすい資料作りを検討してほしいと思います。

○15年間の学びがつながるということは素敵なことであると思いました。各専門部会で先生方が一生懸命資料を作成し、検討を進め、子どもたちのためにご尽力をいただき本当に感謝しています。9年間のカリキュラム検討委員会の報告資料にある、図画工作4年生で

のこぎりの使い方を習得させるために、技術7年生がのこぎりの扱い方を4年生に教えるということは本当によいことであると思います。これは学園だからこそできることであると思います。教えることによって、自分の学びが深まるということはとても大事なことであると思います。それを踏まえて、北方科の指導内容で、7年生では総合テーマとして魅力あるまちを1年間かけて学ぶことになっていますので、北方町には毎年新任の先生が異動され、その中には北方町に初めて赴任してくるという先生もいらっしゃるので、生徒たちが学んだことを8年生になってから先生方にプレゼンをして、北方町はこんな素晴らしいまちですよと教えてあげるといのはどうでしょうか。先生に伝えることによって、自分の学びも深まり、北方町の新しい魅力も発見できるのではないのかなと思いますので、時間の限りはあるのかもしれませんが、そういったことも検討していただけるとよいと思います。情報モラル教育に関して、PTAにおいても来年度は家庭教育を重点において活動を進めていきたいと考えています。今年1年、コロナのためなかなか集まって活動ができなかった部分がありますが、そんな中でもできることはたくさんあると思いますので、1つ1つ考えてやっていきたいと思っています。学校とも相談しながら町内の子どもたちが安心安全に学べるように協力したいと思っています。

○各専門部会の先生方本当にお疲れさまでした。0歳からの15年間には、大きく分けると3つのステップがあり、子どもたちが学んでいるところで達成感を味わいながら自信につながっていく、その接続期が大きなステップになっていくと思いますので、架け橋プログラムも活用し、ゆるやかに接続していけることを非常に願っています。子どもたちがそれぞれ目標を持ちながら、みんなで同じ方向に向かっていくと思いますが、過渡期においては多感な時期にも重なり、そういったときの支援について、デリケートな子もいますので、特に北学園は北方小校区と北方西小校区があわさりマンモス校となり、子どもも保護者も戸惑うことがあると思いますので、そんなデリケートな部分を大事にしてほしいと思います。地域力もあわせてこういった学園に協力できることを考え、手を差し伸べていけるところはやっていきたいと考えています。

○北方学園構想が施策決定されたときから大事にしてきたことが貫かれていると思いました。町の教育方針である「たくましい北方の子を育む」や「だれもが安心して学び合える学園」というのは、そもそも学園構想を立ち上げるときにこれを大事にしていこうとして進めてきたことであり、何年先になっても根幹はここにあると思いますので、北方科や英語教育のもとにあるのは、この教育方針であると思いますので、これからも大事にしていきたいと思います。人事の面から行くと、北方町は教員の人事異動サイクルが早いので、ICTの実践事例集などがあると先生方もとても安心できるし、これを活用して職員研修をされるとよいと思います。北方町に異動してくる先生方のスタートの気持ちが変わってくるといいますので、ぜひ生かしていただきたいと思っています。カリキュラムについては、子どもたちにつけたい力という視点と、教員がどういった点を指導改善しなければならないのかという視点を大事にして今後も改良していただきたいと思っています。子ども

が育つだけでなく、北方町でぜひ研修したいという先生が増えるような教員が育つ学校にしていきたいと思います。

○北方町では、0歳から15歳、岐阜農林高等学校の生徒さんも関わるとなると18歳までの子どもたちが活躍する学園という構想があって本当に素晴らしいと思いました。各専門部会で準備されたことがいよいよ子どもたちにどう力をつけていくか、あるいは子どもたちがどう活用するかという新たな進捗がみられて素晴らしいと思いました。進捗状況報告資料の特色1にも明確にあります。義務教育学校の9年間の1年生から4年生が1部、5年生から7年生が2部、8・9年生が3部となるこの区切りを子どもたちはどこまで意識していますか。また、子どもたちはこの新しい学園がスタートすることをどのように楽しみにしていますか。先ほども話があったICTに関しては問題も多いとどの学校でも思っていますが、逆にこれをうまく活用すると、子どもたち自身も学んでいけることが多いと思います。例えば、新しい学園がスタートするので、1年間かけて、この学園の自慢できることをフォトコンテストや動画コンテストなど、1年生であれば保護者に向けての学校での生活のことや、9年生では地域の人に向けてプレゼンをするなど、自分自身も学校をつくる主体者であるといった楽しみな活動が軸としてあると、子どもたちもすごいアイデアを出してくれるだろうと思ひ、とても楽しみだと思いました。

⇒4年、3年、2年の区切りに関して、子どもたちが意識するということではなく、子どもたちには義務教育学校としては9年間一貫1つと思えばよいと思います。この区切りは、北学園は児童生徒数が千人を超える学校となったときに、教員の指導体制が1つでは無理なので、指導体制は区切らないと1000人を超える教員が組織的に動けないからということの意味合いの方が大きいと思います。この区切りは発達段階に合わせており、10歳の壁とあるように5年生から思春期に入り、7年生くらいまではかなり不安定な時期なので2部とし、8・9年生では進路に向けて自分のよさを磨いていってほしいということがあるので、教員の指導体制の問題であるととらえています。子どもの活躍の場でいけば、1部では4年生、2部では7年生がリーダーと位置付けていきたいと思っています。子どもの意識については、学校がよく考えてくれて、一旦北方中学校へ通い南学園に戻ってくる生徒たちには、自分たちは南学園に戻ってくるという意識を持つために、校舎前の通路に3年間で完成するような絵を描いたり、合唱集会では、北方南小としてのまとめをして新しい南学園に移っていくというような歌を作ったり、子どもたち中心に学校が色々考えてくれていると感じています。

○カリキュラムの完成度が非常に高いと感じました。こども園の学級別帽子の色について、学園の誰もが分かりやすいように学級名と同じ色にされたというお話がありましたが、3歳児と未満児で似たような色を使われており、区別がつきにくいのかなと思いました。ICTの話で、最近視力の問題が言われており、ソフト面で見方を変えるとか、管理するには限界があると思いますので、将来的にはハード面で何か他の方法を検討されるのもよいと思います。施設利用の件で、学園によって図書館の大きさが違うという話がありまし

たが、学園間で相互利用できるのであれば、それほど大きな問題ではないのかなと思いました。宿題に関して、子どもが主体的に学ぶというところで、宿題をなくし、自主学習とかたちになされている自治体もあるようですが、今後のビジョンは何かありますか。あと期待したいのは、教員のやりがいということが一つの視点として重要であり、すでに考えてこられたプランの中には、教員のやりがいを上げる仕組みがいっぱいあると思いますが、それを損なうのが生徒指導事案であり、社会の構造として、親へのサポートとか、子どもへのサポートがプッシュ型にならないといけないという指摘があったり、事後対応ではなく、事前に予測して手を打っていくということをしなればいけないということがあると思いますが、個別に困り感のある子どもに対してどういった支援をするかということに関しては資料にはなかったもので、今後学園が開校してから、生徒指導的などころではどのように対応をされていくのかということも一つの重要な視点であると思います。

⇒こども園の帽子について、未満児については現在保育園で使っているものをそのまま使いたいという要望があり、保護者負担のことも考えそのまま使えるようにしました。未満児については、保育教諭がそばについており、以上児については運動場で自由に遊ぶということもあるため、どのクラスの子どもかがよく分かるような色にしました。

○いじめ、体罰、セクハラ等、学校でも様々な問題に対応しなければならないと思いますが、学園の職員体制はどうなりますか。

⇒各学園の職員体制については、校長1名、副校長1名、教頭3名、両学園で1名の主幹教諭を配置し、組織的に対応できるような体制を整えていただけるよう県へ要望しています。不登校児童生徒の対応として、各学園に校内教育支援センターを開設し、どちらの学園にでも通えるようにしたいと考えています。子どもたちが悩みなどをタブレットで回答することで未然防止できるような仕組みについて、大学とも連携し、構築していくような取り組みも行う予定です。

○北方町はコンパクトで小さくまとまっており、こういったまちのよさが義務教育学校の展開においても大きな意味があると思います。北方学園の中に、北学園と南学園、さらにこども園があり、教員もお互い緊密に連絡を取り合い、意見や情報交換を行っていくこととなります。当初、中学校を2つに分けることに対して、大丈夫かというご意見もいただいたこともありましたが、学校が2つあることにより、子どもたちを対象化して、相対化し、結果的にいい意味においてライバルとして高め合うという文化を北方町として作っていくことが大事であり、そういった志をもち展開していただきたいと思います。北学園と南学園でベースとなるところは一緒かもしれないが、それぞれの学校文化を少しずつ膨らませていくという展開がよいと思います。教員も北学園と南学園を異動したりする中で、自分たちのよさを高め合っていく、そんなものにしていただきたいと思います。また、コンパクトということは、学校が地域や議会などに関われるようになると思います。児童生徒の議会を作って、子どもたちが北方科で学んできたことを生かして町に提案し、それを議会の議員と一緒に考えていくということが今後可能であり、民主主義を育てていくに

は、自分たちがやることがずっと町の政治につながっていくという意識の形成が可能であると思います。北方町のコンパクトということを生かした学校づくりにぜひ期待したいと思います。文科省は義務教育の教育課程の特例について3つの方向で言っています。1つ目は小中一貫教育の教育課程を編成するために特に必要な教科を設定するとありますが、これに関しては比較的どこの義務教育学校でもやっています。2つ目は小学校と中学校の段階を超えた指導内容の移行や入れ替えを自分たちで配慮しなさいとありますが、北方町の場合はこれに幼保も加えたカリキュラムマネジメントが十分に検討されていると思います。3つ目は小学校段階、中学校段階、それぞれにおける学年間における学習内容の後送りや前倒しとありますが、北方町の構想は、この3つに対して意識して展開していると改めて思いました。北方科については、ふるさと学習を軸とし教科の学びともつないだり、教科で学んだことを北方科で生かして考えてみて実感するなど、そういうことも意識したり、ある学年での学びのつまずきは学年が上がるにつれて多くなり、小学校と中学校が分かれていると、中学校の先生も小学校での子どもの学びがどのように動き、つまずきがどうだったのか分かりませんが、学年を超えて、先生同士が共同して学び直しの単元を設けるという重点単元については未完成であると思いますので、バージョンアップしていく必要があると思います。こども版カリキュラムについては、子ども自身が自分の学びに見通しを持てるための助けとなるよう、これから形骸化しないように展開してほしいと思います。ある子どもが自分にとってのカリキュラムにする、子ども自身が自分流に肉付けしていく、個別に自分のものにしていくというプロセスが今後小学校高学年から中学校になると出てくるとよいと思い、そんなことを期待しています。北方町は相当に準備されてこられました。それでも向こうから色々な課題がやってくると思います。でも、楽しみや色々な発見もあると思います。先生方の中にはすぐに適応できる方と、これまでの文化がしがらみとなり、従来のモデルにこだわってしまう方もおられると思います。でもそこで慌てないで、子どもの学びの姿とか、異学年交流などからそれぞれが発見したこと、迷いや戸惑いを気楽に出せる雑談が自由にできる場を設けていただくことが一番大事であると思います。今後地域の方が学校に自然に来校できるような、町の文化センター的な側面を持つということが非常に大事であると思います。新しいことには子どもの方が適応が早いと思います。それだけに、初めのころは教師の方が力むだけでなく、教師が子どもの後を追いかけていくことが大事であると思います。そうすることによりそこから見えてくるものがあると思います。予測する、計画できるという前提で子どもに関わってしまう、実践を組んでしまおうとせず、予想外とか発見するとか意外だなという子どもの姿に実をいうとすごく深い意味があり、それに気づきその可能性を考え受け入れていくという教師側の器づくりが特に最初は大切であると思います。それを次に来る先生たちに継承していく、最初は大変であると思いますが、そのあたりも考えていただきたいと思います。校内研究の形についてもよく検討し、色々工夫してやっていただけるとよいと思います。小中一貫や義務教育について、北方町が岐阜県全体の研修校、県内の先生方が学ぶ、色々な手掛かりとなる場になるとよいと思います。ひとりの教師が15年間の見通しを持つのは無理ですが、教師同士が話し合う、子どもの学びについて気付いたことや学ん

だことを具体的に出し合うということがなければ支えられないと思います。広い視野をもった教師を育てるということが、岐阜県の中で北方町ならそういうことができるという場となってほしいと思います。そうなれば、他の自治体から先生方を送ってくれると思います。棚橋源太郎さんをもっと生かしてほしいと思います。北方町では道徳教材となっておりますが、そこにとどまらないと思っています。例えば、北方町におけるふるさと学習の教材を具体化するとか、他の教科での学びを北方町の中で生かすというヒントになります。実験をすごく重視するその姿は探求の考え方にもつながるところがあると思いますので、ぜひいろんな意味で、単に博物館学ではなく、理科教育を超えた探求ということについて深めてきた方であると思いますので、そんな方が北方町出身であるということを生かしていただきたいと思います。

委員長：以上で協議を終了する。

委員長：最後に、その他の事項について事務局に説明を求める。

事務局：事務連絡として、閉校式・閉園式及び開校式・開園式、次年度以降の組織について説明する。

委員長：以上で本日の会議を終了する。（12時終了）